

喜多直毅violin
照内央晴piano
西嶋徹contrabass

※マスクの着用を必ずお願いいたします。
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2022 01月15日(土)

開場 19:30 night live

開演 20:00

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink 600~)

MC=3700円 +2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



照内 央晴

1972年、東京生。即興ピアノ演奏家。これまでに、国内外の多くのインプロバイザーと共演。2017年、パーカッションist 松本ちはやとの共同名義による初の即興演奏CD《哀しみさえも星となりて》リリース。2018年には、初の海外(欧州)ツアーをおこなった。現在は、豊住芳三郎、吉田達也、喜多直毅、加藤綾子らとのデュオのほか、トリオその他の形態・ユニットでも即興演奏の世界を探究している。また、身体表現など幅広いジャンルとのコラボレーションも多い。

喜多直毅

国立音楽大学卒業後、渡英し作編曲を学ぶ。その後アルゼンチンにてタンゴヴァイオリン奏者のフェルナンド・スアレス・パスに師事。タンゴからプログレッシヴロック、アラブ音楽、フリージャズなどに演奏分野を拡大し、近年は即興演奏やオリジナル楽曲を中心とした演奏活動を行っている。2011年よりメインプロジェクトとして喜多直毅クアルテットを開始。出自であるタンゴと様々な音楽の融合による独自の世界を創り出している。黒田京子とのデュオでは、即興性を重視したユニークな編曲で映画音楽・昭和歌謡・オリジナル作品を演奏している。即興演奏を中心とする齋藤徹(故人)の企画へも多数参加。日本や韓国の伝統音楽奏者との共演(久田舜一郎、沢井一恵、他)、コンテンポラリーダンス作品への参加では国内のみならず欧州での演奏活動も多い。翠川敬基、田中信正、西嶋徹とのデュオも頻繁に行う。また作家・高樹のぶ子の朗読舞台ではヴァイオリンと作曲を担当している。ソングライターとしては上條恒彦へ楽曲を提供。我が国に於いて最も先鋭的な活動を行うヴァイオリニストの一人である。

西嶋徹

1973年東京生まれ。5才よりヴァイオリン、高校よりエレキベースを始め、大学卒業後にコントラバスを始める。ジャズやアルゼンチンタンゴを軸に幅広い分野で活動。現在、Cuatrocientos、三枝伸太郎Orquesta de la Esperanza、鬼怒無月Quinteto、吉田篤貴EMOstrings、などのグループに参加。これまでに、葉加瀬太郎、綾戸智恵、小野リサ、小松亮太、Jazztronik、Pablo Ziegler等多くのアーティストのコンサートやレコーディングに参加。2014年にピアニスト林正樹との2枚目となるDUOアルバム「El retratador」をリリース。